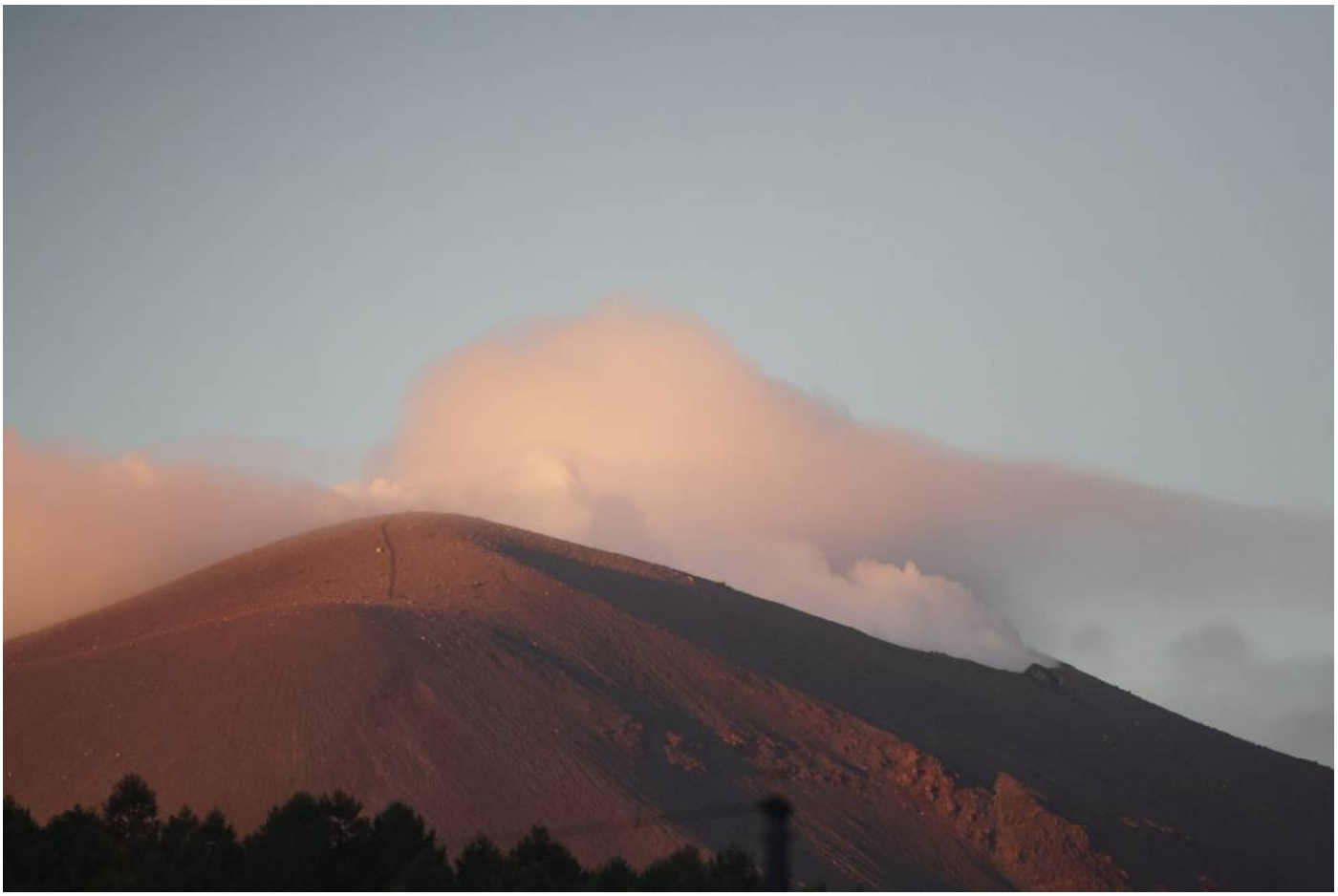
2023_1023「赤浅間（写真）」日々の理科 3364 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

「赤富士」というのは有名です。非常によく晴れた日の朝、ごく短時間、弱い太陽光線が山体に当たり、富士山が真っ赤に見える現象です。昔から画の題材にも好んで描かれました。富士山が真っ赤になるのは、独立峰であること、山体を形成する火山砕屑物が赤いもの（たとえばスコリア）が多いこと、山頂付近に植生がほとんどないことなどが挙げられます。夜明けの太陽光の赤さも手伝って、真っ赤に見えるのです。アルプスでよく見られる「モルゲンロート」の一種と言っても良いでしょう。

浅間山も条件は似ています。富士山と同じでほぼ独立峰、火山砕屑物で覆われ、山頂付近の植生は貧弱です。ただし、富士山の山頂付近の植生が貧弱なのは、3000m を超える高地だからで、浅間山の植生が貧弱なのは、噴火の歴史が浅く、植生が形成される前にまた噴火するからです。積雪期にも「赤浅間」は見られますが、私は無雪期の赤浅間が好きです。

（2023 年 10 月下旬／北軽井沢／東京から遠隔観測）